

09:30- 開場・受付開始



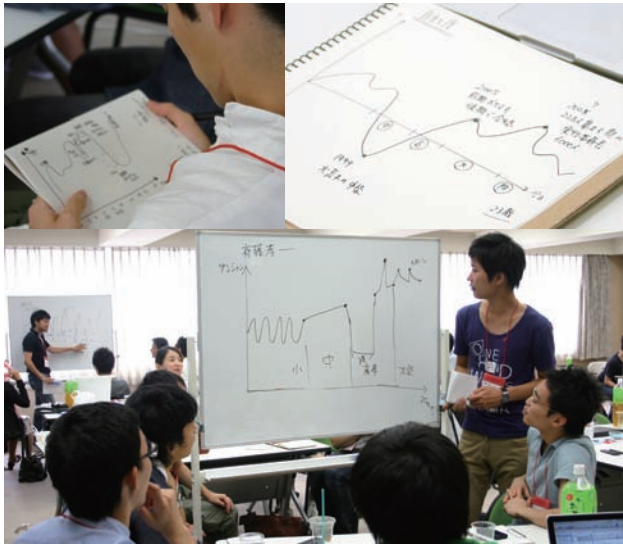
受付を済ませた参加者は、早速7つのグループに分かれ、他の参加者とコミュニケーションをとっていました。

10:10- イントロダクション



「See-D が今日提供できるのは『道具』と『場』です！」まずは、実行委員の横田さんから今日のワークショップ (WS) のプログラムや内容、位置づけの説明、ファシリテーターとアドバイザーの紹介からスタートしました。横田さんからこのWSを成功させるアドバイスとして、「異分子への傾聴」「ポジティブな解釈」「楽しさによるドライブ」というキーワードがあげられました。

10:25-11:30 自己紹介



では、グループ内で自己紹介をしてみましょう！しかし、ただの自己紹介ではありません。横軸を自分の生まれた時からの時間軸、縦を「幸せ」「調子」など自分で設定する軸としてグラフにしてみます。5分ほど個人で紙に書き出し、グループ内で発表します。発表では、みなさんとても楽しそうに自己紹介をしていました。縦軸の項目は、「ものづくりへのモチベーション」「世の中の好き度」「夢に向かうモチベーション」「テンション」などなど参加者によりさまざまでした。しかし、ほとんどの方は共通して、今が人生の中で良いときだと感じているようでした。

13:00-i.school 的考え方の理解

昼食後、i.school ディレクターの田村さんからi.schoolの人間中心イノベーションという概念やビジネス・エスノグラフィーのフィールド調査方法についての講義がありました。どうやってものを見るのか？どう考えるのかのヒントになるようなお話でした。



i.schoolを体験してもらいます

◀思考実験1：この写真を見てどう何を感じますか？

「この日は雨だっただろう」「傘が子供の背に合っていない」といった答えが返ってきました。この写真を撮った

意図は、「少子化の時代に5人の子供がいる」ということが気になったからだそうです。ここで言いたいことは、「これが真実だという実証はない」ということです。

思考実験2：この(IDEOの)アイデアをどう思いますか？▶

「3枚目が食べてみたくなります」「新たな広告という意味でイノベーションになると思う」という参加者からの返答がありました。IDEOでは、子供はお菓子を食べ物ではなくおもちゃだと思っているという発見からこのアイデアが生まれました。



◀思考実験3：海外へ行くと疲れませんか？

「エスノグラフィーはカルチャーショックである。」という言葉があるように、身知らぬ地に行くときちょっとした違和感を受けます。「複眼思考」で捉えることで、他者や他の文化を理解することができます。

14:00-「ちょっとした違和感」を体験してもらいます

先週韓国で行われたi.schoolのワークショップで撮影された写真を、i.school生が各グループで参加者に見せながらその写真についての説明をしました。i.school生が韓国でした体験を共有し、グループ内で写真に対して議論を行いました。





各グループ、i.school生が撮影した写真に対して「何がおもしろいか」「どんな気づきがあったか」を付箋に書き写真に貼付けていきました。

14:50- いい写真とは？

続いて、どれがいい写真だったか（多くの気づきを引き出したか）を選びその共通点をあげていきました。各グループが見つけたいい写真を紹介しました。



全体と部分が写っている写真、人の動作がわかる写真、日本にはないものの写真



メッセージ性の強い写真、引きで撮った写真、何気ない風景の写真



引きで撮影され多くの情報が入っている写真、コンテキストの見える写真、日本との違いが分かる写真



課題が見える写真



日常生活の写真、情報が多く入った写真、日本と共通で比較しやすい写真



日常的な写真、インパクトのある写真

15:30- たくさん写真を撮ってくること

東ティモールでのフィールドワークにおいて「たくさん写真を撮ること」これがまず重要!あとは、文化や社会インフラなどにも注目してみてください。

16:35- フィールド調査の方法をレクチャー



にネットの日暮さん、本村さんからフィールドワークの方法（RRA = 農村簡易調査法）のレクチャーが行われました。何よりも大切なことは目的を明確にすることです。

フィールド調査第1便の報告



調査地 Bobonaro は山間部にあり、非電化率が高く、安全な水の確保が課題になっているそうです。またトイレは蚊などが多くいるので覚悟をした方がいいという貴重な報告後がありました。また同時に、第2便が調査に行く東ティモールのロスパロスについての案内が。内戦の影響を強く受けた海がきれいな地域だそうです。

RRA 調査とは？

RRA は迅速に低コストに情報を収集するための調査方法です。情報源を並列に3つ以上選んで組み合わせで調査・分析することが肝になります。

18:20- グループワークでの調査項目設定



各グループで、これまでの田村さんや日暮さんのレクチャーをもとに現地での調査項目を設定する練習を行いました。自分たちが興味があることや聞いてみたいことをあげ、そこから項目を構造化してきます。代表で1グループにディスカッションの内容を発表してもらいました。このグループは「トイレ」がテーマになりそうでした。

19:30- 振り返り



シンポジウムに引き続き神戸芸工大曾和先生・柴田さんによるリアルタイム・ビデオ (RTV) で今日の振り返りを行いました。RTVを鑑賞した参加者からは、「もう朝のことは忘れていた!それに気付かされたことに驚きました!」

■日時：2010年8月21日10時～19時（懇親会：19時～20時）

■会場：海洋船舶ビル10階

■参加者：WS参加者40名、オブザーバー15名

■問い合わせ：http://see-d.jp/

■主催団体：NPO法人コペルニク